



巻頭言 主の導きは不思議

東義也 1

「成長」の使い方

2019年度「成長」カリキュラム表

◆特集 子どもたちのデイブーションを励まそう

嶋田博考 12

◆連載 子どもを育む教会へ——「居場所」の在り方

田中哲 16

◆連載 中高生に信仰を伝えるために

川口竜太郎 20

グレード1教案

川島祥子 24

教課研究

中台孝雄

グレード5教案

小野淳子、吉川直美

グレード4-5 ワークシート

162

編集室

176

■単元16 イスラエル王国

目標、カリキュラム表

第1課 (1・6) サムエル	29
第2課 (1・13) 最初の王サウル	30
第3課 (1・20) 失敗したサウル	40
第4課 (1・27) 選ばれたダビデ	50
第5課 (2・3) ダビデとゴリヤテ	60
第6課 (2・10) 神にゆだねたダビデ	70
第7課 (2・17) 罪を犯したダビデ	80
第8課 (2・24) 知恵を求めたソロモン	90
第9課 (3・3) ソロモンの神殿建設	100

■単元17 イエスとペテロI

目標、カリキュラム表

第1課 (3・10) 水の上を歩く	121
第2課 (3・17) ペテロの信仰告白	122
第3課 (3・24) 叱られたペテロ	132
第4課 (3・31) イエスの変貌	142

表紙絵 わたなへまな／目次絵 住谷加代／カット sakura notioo

教案執筆者 飯野優、池田めぐみ、伊藤真澄、井本香織、川嶋範子、佐藤摂子、城倉翼、玉井知栄子、長島瑛子、広瀬志保、松井由紀恵、明利篤洋

# ■分級教案

4月12日—グレード③

4/12 (第2課) (6c)(1)

**マダラのマリヤ**

ヨハネ20:1～18

主 題 エースの復活を知らせる

暗唱聖句 「わたしはエースの復活を知らず、心も死んで居ました」ヨハネ20:14

目的 復活の知らせを受け、希望を抱くこと

導入と展開 「イエス様の復活」の箇所を朗読し、登場人物の心の動きに注目し、イエス様の復活の知らせを受けたマリアの心情の変化を捉える。

① 兄弟たちに知らせに行つた女性の中に、マダラのマリヤがいました。マリヤは、とても苦しむ時にイエス様を助けていたのに、イエス様は死んでしまった。イエス様は復活し、生きてきた。マダラのマリヤは、この知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。

② マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。

③ マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。

④ マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。

⑤ マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。マダラのマリヤは、復活の知らせを受け、希望を抱くことができました。

- ① 決心日 1号につき1回設定。生徒の信仰の段階に応じて適切な決心を促す。
- ② 暗唱聖句 グレード2は単元につき1～2つ、グレード3以上は1課ごとに、主題に沿った聖句。(暗唱聖句豆カードと対応)
- ③ 聖書の復習・適用 聖書のお話の復習や、生徒個人の生活に適用するための質問。
- ④ 毎日の聖書 学びのテーマに沿ったみことばの箇所や祈り。毎日のデイブーションに。(月刊「らみい」掲載の「毎日のみことば」と対応〔グレード3相当〕)
- ⑤ ワンポイント・アドバイスを学びに役立つ聖書知識、生徒への配慮など。学びを深めるために(グレード5) 個人の学びや、グループディスカッションに。

## ■参考図書、地図

『ティンデル聖書注解シリーズ』、『新聖書注解』、『新聖書講解シリーズ』、『新実用聖書注解』、『ビジュアル聖書百科』、『新聖書辞典』、『カラー新聖書ガイドブック』、『バイブルワールド』、『BIBLE navi』、『バイブルガイド』  
(以上 いのちのことば社)

## ●第14 サイクル (2017年4月～2020年3月)

# 「成長」の使い方

「成長」は、聖書信仰に立つ教会学校教師のための教案誌です。3年間を1サイクルとして、旧新約聖書から重要な箇所を学ぶカリキュラムとなっています。

すべての年代で同じ聖書箇所から同じ主題で学んでいく統一教案ですが、生徒の年齢、理解力、信仰の成長段階に応じて、分級を5つのグレードに分けています。クラスの状況によって適度にアレンジを加えながら、変化に富んだ充実したクラスをつくり上げてください。

## ■メッセージ準備の流れ (例)

1. 教案を読む前に、まず祈り、繰り返し聖書を読みましょう。
 

生徒に確信をもって語るためには、みことばを自分のものにするのが大切です。必要に応じて、取り上げられている聖書箇所の前後も読みましょう。グレード5の教案は、個人や教師会での学びに役立ちます。
2. 「教課研究」を読みましょう。
 

聖書箇所の歴史・地理・文化的背景や、全体像(概要)を把握するために役立ちます。
3. 「分級教案」をヒントに、メッセージを組み立てましょう。
 

生徒の理解力に応じて、適切な展開や質問などを考えましょう。ご自分のことばで原稿にしておくことをお勧めします。自分のクラス(グレード)以外の教案にも目を通すと、より多くのヒントを得られるでしょう。

## ■グレードの目安

- えい児 ▶ グレード1
- 幼児～小1、2年 ▶ グレード2
- 小2～小5、6年 ▶ グレード3
- 小6～中3、高1年 ▶ グレード4
- 高校生、青年、成人 ▶ グレード5

- \* 関連教材もご利用ください
- ◎ 生徒用ワークブック
  - 「工作・パズル」(幼児向け)
  - 「グレード2」(小学低学年向け)
  - 「グレード3」(小学高学年向け)
  - ※ グレード4～5向けのワークシートは本誌に掲載
- ◎ 「成長」視覚教材
- ◎ 暗唱聖句 豆カード

## 一月 「神様の声を聞くサムエル」(Iサムエル3章)

〈主題〉神のおこたばを聞き、従う。

〈暗唱聖句〉「主よ、お話しください。しもべは聞いておりません」(Iサムエル3・9)

〈歌〉「ちいさいおててに」三節(『幼児さんびか』(キリスト教保育連盟) 64頁)

〈お話〉ペープサートを用いて話します。『成長 視覚教材』や『たのしいせいしょかみしばい旧約セット』(いのちのことば社)のサムエルの話のイラストを用いてもよいでしょう。

〈お祈り〉「神様。大好きな神様が、私たちにお話ししてください。私を助けてください。神様の話をよく聞いて、私も元気な心でいられますように。神様が喜んでくださることができるようになりますように。アーメン」

〈活動〉

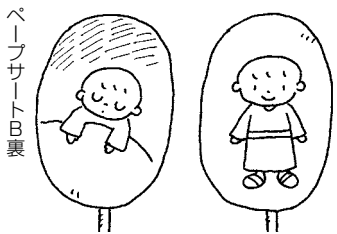
●福笑いなど正月らしい遊びをしましょう。大きなフェルトで顔の輪郭とパーツ(まゆげ、目、鼻、口)を作り、目隠しはしないで、輪郭にパーツを置いて遊びます。お父さん、お母さん、子どもなど何パターンか作っておきましょう。



ペープサートC裏

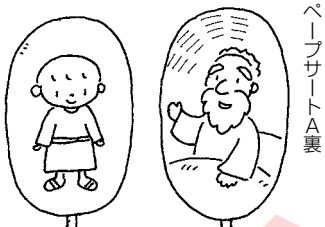
⑥「サムエル、サムエル」。また神様に呼ばれて、サムエルはお返事しました。「神様、お話してください。ほくは聞いています」

神様は私たちにもお話をしてください。「神様、お話ししてください。聞いています」とお祈りしましょうね。



ペープサートB裏

②ある日の夜、「サムエル、サムエル」と呼ぶ声がしました。サムエルは飛び起きました。「誰だろう。ほくの名前を呼んだのは。きっとエリ先生だ」。サムエルは、エリ先生の部屋に走って行きました。

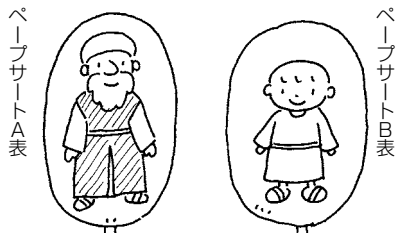


ペープサートA裏

③「エリ先生、エリ先生。今、ほくを呼びましたよね。何かご用ですか」。エリ先生は眠たそうな顔で、「いや、私は呼ばないよ」。

④お布団に戻ると、「サムエル、サムエル」とまた呼ばれました。でも、エリ先生の部屋に行くと、「私は呼んでいないよ」。「おかしいなあ」。不思議でたまりません。(②と③のペープサートを繰り返し見せる)

⑤「サムエル、サムエル」。3回めに呼ばれた時、エリ先生が言いました。「サムエル、神様がおまえを呼んでいらっしゃるのだ」(②と③のペープサートを繰り返し見せる)



ペープサートB表

ペープサートA表

①このおじいさんは、神様のご用をするエリ先生。この男の子は、エリ先生のお手伝いをするサムエルです。サムエルは神様が大好きです。いつも朝早く起きると、神様にお祈りして、夜、眠る前もお祈りしてからお布団に入ります。

●インフルエンザが流行する季節でもあります。「コンコンクシャンのうた」(作詞・香山美子、作曲・湯山昭)などうがいの大切さを伝えることもできます。

〈留意事項〉

●サムエルは、神を恐れる敬虔な両親から受け継いだ信仰によって、「主よ、お話しください。しもべは聞いております」とお答えしました。神に聴くという信仰の土台があつてこそ、神のご計画の中で用いられることを覚えたいと思います。

## 二月 「ダビデとゴリアテ」(Iサムエル17章)

〈主題〉恐れなくて、神に信頼する。

〈暗唱聖句〉「神に信頼し 私は何も恐れませぬ」(詩篇56・11)

〈歌〉「まもり」(『幼児さんびかII』(キリスト教保育連盟) 21頁)、

「子どものいのり(B)」一節(『同』10頁)、「あそんでいても」

(『同』18頁)

## サムエル

I サムエル3章  
(1章、2:18~26)

**主題** 神のこぼを聞き、伝えた預言者。  
**暗唱聖句** 「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(Iサムエル3・9)

## 単元の中心的テーマ・主題の背景

古い時代が過ぎ去り、新しい時代が訪れる。それは心浮き立つような期待を私たちに抱かせることであろう。新年はそのような時である。古い自分に決別して、新たな気持ちで歩み始める。これまでが暗い時代であれば、なおさら期待が高まる。

新春から学んでいくサムエル記は、そのような期待感から始まる。偉大な指導者モーセ、ヨシユアの後、イスラエルは全国的な指導者を欠き、周辺の諸民族との争いが途絶えることなく、各部族で地域的に指導した士師(さばきつかさ)たちも、短期間で現れては消え、道徳的な善悪の基準も失われたような状態であった。泥沼に美しく咲いた一輪の花のようなルツ記は、本来の旧約聖書の配列では現在の位置にあるわけではないので(とはいえ古代は巻物として保存されていたであろうから、現在のような目次といった概念があるわけではないだろうが)、サムエル記直前の士師記の最後のことばが、「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自

だろう(サムエルと知らずに眺めている人も多いかもしれない)。その場面から本単元の学びは始まる。

## 一 サムエルの誕生(1章、2:18~26)

今回はサムエルの誕生についてはあまり扱わないが、それでも簡単に確認しておこう。

サムエルは、エフライムの山地に住むエルカナの子として生まれた。通常であればエフライム部族に属することになるだろう。けれども、聖書ではサムエルの出身部族は必ずしも明確ではなく、レビ部族の可能性もある(後述)。

そのサムエルは、エルカナの妻の一人ハンナの祈りによって生まれた。家庭環境の複雑さからであろうが、ハンナは祈りが応えられた感謝として、サムエル(「神の名」「神が聞かれる」といった意味か)を祭司エリの家に預け、「主にゆだねられたもの」(1:28)として育つことを願いつつ、自分は時々(年に一度?)訪ねるだけにとどめていた。けれどもハンナの信仰は確実にサムエルに受け継がれた。

## 二 サムエルへの呼びかけ(3:1~9)

少年サムエルは、そのようにして祭司エリの家で育てられた。サムエルがレビ部族出身である可能性は、神殿で奉仕したレビ人の系図に、「サムエルはエルカナの子」(1歴代6:34)とあることからいえる。これが本課で取り上げるサムエルと同一人物であれば、レビ部族に属していたことになる。その場合は、エフライムは地名として挙げられているだけであろう。いずれにしても、祭司エリの家で預けら

分の目に良いと見えることを行っていた(21:25)という不気味なものであることを思うと、新しい時代の訪れが強く期待されていたことであろう。

そうした時代の出来事から、サムエル記は記述を始める。人々の期待がこめられた新しい王国が誕生する歴史が語られるのである。まずは、王国を誕生させる役目を果たす預言者サムエルが登場する(祭司でもあり、最後の士師でもある)。そのサムエルのもとでサウルが初代の王として立てられる。次いで、サウルの失脚という悲しい出来事を経て、ダビデが王となる。やがてダビデの子ソロモンが王となり、それまでいわば仮住まいであり続けた神の家(聖所)を壮大な石造りの神殿として建設する。本号ではそこまでを二か月強かけて見ていく。

サムエル記では、神の直接的な語りかけを別とすれば、奇跡的なことはほとんど起きない。人々がさまざまな計画を立てて実行する。それがぶつかり合って、困難や悲劇が生じる。分裂があり、不道徳があり、陰謀があり、争いがある。悔い改めがあり、信仰があり、知恵がある。そうした中で、静かに、けれども確実に、神のご計画が進み、やがて来られる救い主の道備えがなされていく。期間としては、BC1000年前後の百年あまりの年月になる。今から三千年前の古代イスラエルの歴史をたどっていきましょう。

## テキストの解説

会堂に少年サムエルが祈る絵を飾っている教会もある

れたサムエルは、後に祭司としての役割も果たしている。

ある晩、少年サムエル(その時の年齢は不明は、自分を呼ぶ声を聞いた。そのたびにサムエルはエリのところへ走っていくが、呼んでいたのはエリではなかった。三度めにエリは事態を察した。主なる神がサムエルに呼びかけているのだ、と。

## 三 神に託された使命(3:10~21)

四度めに自分の名を呼ぶ声を聞いた時、サムエルはエリに指導されたように、「お話しください」と答える。

そうして主がサムエルに語りかけた内容は、衝撃的なものだった。エリの子たちはその悪行のゆえに祭司職を継ぐことはない、というのである。翌朝、そのことを聞いたエリはすべてを悟り、主のみこころを受け入れた。

こうしてサムエルは成長し、エリの一家に替わり、全国的な指導者、預言者として活躍することになる。

## 暗唱聖句の説明

二つの対比がなされている。「主」と「しもべ」、そして「お話しください」と「聞いております」。私たちは時にそれぞれを逆転させてしまう。自分が主であり、神が自分のしもべであるかのように思う。そして耳を傾けるよりは、こちらから一方的に願いを話してしまう。もちろん、祈りは大切であるので私たちが語るのはいいことだが、主なる神が私の主であることを覚え、神の語りかけ(聖書のことば)に聞くことも大切にしよう。

1/6《第1課》  
(新年)

サムエル

I サムエル3章  
(1章、2:18~26)

**主題** 神のことは聞き、伝えた預言者。  
**暗唱聖句** 「主よ、お話しください。しもべは聞いておられます。」(Iサムエル3:9)  
**目標** 神からの語りかけがよくわかるように、みことばに親しむ。  
**導入から聖書へ**——明けましておめでとうございま

す。今年も、教会学校で楽しく過ごして、聖書のお話をたくさん聞きましょね。聖書は神様のおことばですから、聖書のお話をしっかりと聞くと、神様のことばが心に響いてきますよ。「あなたたちのことが大好きですよ」「いつも見守っていますよ」つねね。今日は、神様のお声を聞いた男の子の話です。

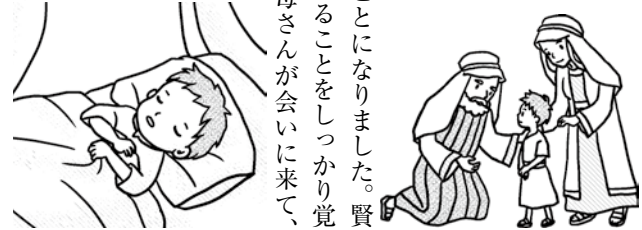
一 お母さんハンナ (1章、2:18~26)

「おやおや」。神様に仕える祭司のエリは不思議に思いました。神様を礼拝する主の宮で、女の人がひざまずいて、ぶつぶつと唇を動かしています。エリは声をかけました。「もしもし、さつきから何をしているのですか」「ああ、祭司様。私は、神様に聞いていただき



たいことを真剣に祈っていました。この人の名前はハンナ。赤ちゃんが欲しいのになかなか与えられなくて、悲しんでいたのです。「そうでしたか。安心なさい。神様があなたの願いをかなえてくださるでしょう」とエリは言いました。次の年、ハンナは赤ちゃんを産みました。かわいい男の子で、サムエルと名づけました。サムエルが三歳ぐらいになった時、ハンナはサムエルを

祭司エリのもとに連れてきました。「祭司様。神様は私の祈りを聴いてくださいました。この子は神様のものです。神様のお仕事をさせてください。まだ小さなサムエルでしたが、主の宮に住んで、エリのお手伝いをするようになりました。賢いサムエルは、エリから教わることをしっかりと覚え、一年に一度はお母さんが会いに来る、サムエルのために作った上着を届けてくれました。」



二 神様からの呼びかけ (3章)

ある晩のことです。サムエルが寝ていると、「サムエル。サムエル」と呼ばれました。サムエルは起きて、エリの部屋に走っていききました。「はい。ぼくはここです。お呼びになりましたか」。するとエリは、「いいや、呼んでいないよ。帰ってお休み」と言いました。部屋に戻って横になるとまた、「サムエル。サムエル」と呼ばれました。サムエルは飛び起きて、エリの部屋に走っていききました。でもエリは、「私は呼んでいないよ」と言います。「変だなあ」と思いながら戻って横になると、また、「サムエル。サムエル」という声。サムエルはまた走って行って、「先生。お呼びになりましたか」と言いました。エリが、はっと気づいたように言いました。「サムエル。おまえを呼んでいらっしやるのは、神様だ」

そのあと、サムエルが戻って横になると、「サムエル。サムエル」と神様が語りかけました。サムエルはすぐに起きて、エリに教えられたとおりにお返ししました。「神様。お話しください。私は聞いております。まだ小さなサムエルでしたが、この時から、神様のおことばを聞いて伝える預言者にな



りました。  
**聖書の復習・適用**  
① ハンナは、どんなことをお祈りしていましたか。(赤ちゃんが与えられるように)  
② 神様はハンナの祈りを聴いてくださいましたか。(祈りに応えて、サムエルを授けてくださいました)  
③ サムエルが寝ていた時、どんなことがありましたか。(神に名前を呼ばれた)  
④ 神様に呼ばれたサムエルは、何とお答えしましたか。(暗唱聖句の「主」「しもべ」などのことばを説明する)  
⑤ 神様は私たちにも語りかけてくださいますよ。どうしたら神様のおことばを聞けるか、知っていますか。(聖書を通して、神が語りかけてくださることを伝える。今年もたくさんのおことばを心に蓄えるように励みます)  
**〈歌〉**「ちいさいこどもの」「こどもさんびか改訂版」「日本キリスト教団出版局」47番、「サムエルさん」「ふくいん子どもさんびか」「いのちのことば社」27番  
**〈制作〉**「サムエルのベッド」(下段参照)  
**今週の祈り**  
「神様。新しい一年が始まりました。小さな子どもたちにもお話しください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」

ワンポイント・アドバイス

- ★幼いサムエルに語りかけてくださった神を、子どもたちに近いお方として印象づけたい。
- ★新年を迎えて初めてのクラス。今年の目当てなどを話題にして、神の守りと導きを祈ろう。
- ★〈制作〉「サムエルのベッド」 用意する物／大小の紙(各自に1枚ずつ)、人の形に切り抜いた厚紙、暗唱聖句を書いた紙、フェルトペン、のり 作り方／①大きい紙をベッド、小さい紙を毛布に見立て、

色を塗る。②人の形の厚紙にサムエルの顔や洋服を描く。③毛布に暗唱聖句の紙を貼る。④ベッドに寝かせたサムエルに、「サムエル、サムエル」と呼びかけ、ベッドから出して、「主よ、お話しください。しもべは聞いております」と言う。

1/6《第1課》  
(新年)

## サムエル

I サムエル1、3章

**主題** 神のことばを聞き、伝えた預言者。  
**暗唱聖句** 「主よ、お話しください。しもべは聞いておられます。」(Iサムエル3・9)  
**目標** 神のことばである聖書に真剣に向き合う者となる。  
**導入から聖書へ**——聞いているようで聞いていないか?

た、という経験はありませんか。ゲームに夢中で、お母さんに呼ばれても気づかなかったとか、授業中ほかのことを考えていて、先生の話が全然頭に入っていないかったとか。「しっかり聞く」って、なかなか難しいことなのかもしれないですね。今年最初の聖書の話は、神様のことばを聞いた少年のお話です。

## 一 サムエルの誕生 (1章)

イスラエルに、ハンナという女の人がいました。結婚して月日がたつのに子どもが生まれず、とてもつらい思いをしていました。ハンナと夫は毎年、シロの町に出かけ、神様を礼拝する主の宮でささげものをしていました。ある時、ハンナはこの主の宮で、泣きながら神様に祈りました。「神様が私に男の子を授けてくださるなら、その子を神様におささげします」と。神様はハンナの祈りに応えてくださいました。翌年ハンナは男の子を産んだのです。ハンナはその子をサムエルと名づけ、大切に育てました。

サムエルが三歳ぐらいになると、ハンナはサムエルをシロの主の宮に連れていき、祭司のエリに預けました。「神様に約束したとおり、この子を神様におささげします」と言って。幼いサムエルは、エリから神様の教えを学んだり、エリの手伝いを

したりして、神様のご用をするようになりました。

## 二 サムエルへの呼びかけ (3・1～9)

サムエルがみなさんと同じくらしいの年になった頃のことです。ある夜、サムエルが寝ていると、「サムエル、サムエル」と誰かが呼ぶ声がしました。「エリ先生だ」と思ったサムエルは、急いでエリの部屋に行き、「はい、ここにおります。私をお呼びになりましたか」と言いました。ところがエリは、「いや、呼んでいないよ。帰って、お休み」と答えました。サムエルは戻って、横になりました。

ところがまた、「サムエル、サムエル」と呼ぶ声がしました。サムエルはエリのところに走っていき、「はい、何かご用ですか」と言いました。エリは今度も、「いや、呼んでいないよ」と答えました。サムエルは首をかしげながら戻りました。そして横になると、またもや、「サムエル、サムエル」と呼ぶ声が。サムエルはさっと飛び起きて、エリの部屋

に走りしました。「はい、ここにおります。お呼びになりましたね」。エリはじっと考えてから、こう言いました。「そうか…。サムエルよ、神様がおまえを呼んでいらつしやるのだ。今度呼ばれたら、このようにお答えしなさい」

## 三 神様のことばを聞くサムエル (3・10～21)

エリの部屋から戻ったサムエルが横になると、「サムエル、サムエル」と神様がお呼びになりました。サムエルは起き上がり、エリから教えられたとおりにお答えしました。「神様、お話しください。私は聞いております」。神様はサムエルに、大切なお告げをお話しになりました。サムエルは神様のことばにしっかりと耳を傾けました。

翌日、エリはサムエルを呼び、「神様は何をお語りになったのかね」と聞きました。サムエルは、エリに神様のことばを伝えるのがつらいと思いましたが。それは、悪いことをしているエリの息子たちに神様が罰を与えるというお告げだったからです。それでも、「隠さないで教えておくれ」と願うエリに、サムエルは神様のさばきのことばをきちんと伝えました。エリは深くうなずいて、「神様のお考えのとおりになるように」と言いました。19～20節を読みましよう。この時からサムエルは、神様のことばを聞いて伝える預言者となったのです。

## 聖書の復習・適用

① 神様は、聖書のことばを通して、私たちにも語りかけてくださっています。聖書のメッセージを聞くとき、聖書を読むとき、みなさんはどんな姿勢で臨んでいますか。(「聞いているようで聞いていない」ということがないだろうか。暗唱聖句から、神のことばに心を向けてしっかりと聞く姿勢が大切であることを伝える)

② 今まで、みなさんが神様から教えられたみことば、励まされたみことばなどを教えてください。(教師も証しする。今年もたくさんのみことばを心に蓄えるように励ます)

〈歌〉「イエスさまのことばが」「(こどもさんびか改訂版(日本キリスト教団出版局)6番)

〈活動〉「みことばかるた」

教師の準備 今まで暗唱した聖句を二つの句に分けて、下の句をカードに書いておく。

## 毎日の聖書

日曜 Iサムエル3・9、月曜 ヘブル1・1～2、火曜 IIテモテ3・16～17、水曜 ルカ8・15、木曜 詩篇119・105、金曜 詩篇95・7～8、土曜 ヤコブ1・21～22

## ワンポイント・アドバイス

★旧約聖書の時代において神は、預言者に夢や幻を見せる、直接声をおかけになるという方法でみこころを示し、民は預言者を通して神のみこころを知った。今の私たちはおのおのが聖書を通して神のことばを聞き、みこころを知ることを確認しよう(ヘブル1:1～2)。

★エリの家に対するさばきのことばは厳しいものであったが、サムエルは神のことばを告げ、エリはそれを受け止めた。自分にとってつらく思えるみことばも、受け止めて従う大切さを伝えたい。

1/6《第1課》  
(新年)

サムエル

I サムエル1、3章

**主題** 神のことばを聞き、伝えた預言者。  
**暗唱聖句** 「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(Iサムエル3・9)  
**目標** 聖書を読んだり祈ったりするときの、神に対する向き合い方を振り返る。  
**導入から聖書へ**——みなさんは新しい年をどのよう

な思いで迎えていますか。昨年は災害も多く、大変なことが自分や周りの人に起きた人もいるかもしれませんが、暗い出来事があればなおさら、新しい年には新たな期待があるでしょう。イスラエルの民にも、新しい時代が訪れようとしています。

一 サムエルの誕生 (1章)

十一月に士師記について学びましたね。モーセやヨシヤの時代が終わると、民全体を導くりーダーがなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行うという、暗い混乱の時代が続ききました。

新しい時代は、一人の男の子、サムエルが生まれることから始まります。サムエルは、母ハンナの切実な祈りから生まれました。ハンナはなかなか子どもが与えられず、つらい思いをしていました。その気持ちは神に向かっていきました。ハンナは心を注ぎ出し、神から答えを頂くまで熱心に祈りました。そうして生まれたのがサムエルです。サムエルは母ハンナの信仰を受け継ぎました。

二 サムエルへの呼びかけ (3・1～9)

サムエルは幼い頃から祭司エリに預けられて育ちました。祭司は、神と人との間をつなぐ役割を担っています。サムエルは主のみもとで、母に祈

られ、祭司の働きを見聞きしながら主に仕え、主にも人にも慈しまれて成長していきました。

ある夜、少年サムエルが神殿で眠っていると、神がサムエルを呼ばれました。サムエルは、エリが呼んだと思って走っていききましたが、エリは呼んでいないと言います。その頃イスラエルでは、神からのことばが与えられることはめつたになかったのです。エリは神がサムエルを呼んだとは思わなかったのでしょうか。サムエルはまだ神からのことばを聞いたことがありませんでした。サムエルは戻って寝ました。

神はもう一度、サムエルを呼ばれました。サムエルはまたエリのところへ行きましたが、呼んでいないと言われて戻ります。主が三度めにサムエルを呼ばれた時、エリはようやく神がサムエルを呼んでおられるということを悟りました。

サムエルが戻って寝ると、主が来て、そばに立ち

「サムエル、サムエル」と呼ばれました。サムエルはエリから教えられたとおりに「お話しください。しもべは聞いております」と言いました。

母ハンナが神を「主」、自分を「はしため」と呼んで祈ったように(I・11)、サムエルも神を「主」、自らを「しもべ」と呼んで、神のみこころを聞く者となりました。

三 神から託された使命 (3・10～21)

主がサムエルに言われたのは、聞くに堪えない衝撃的なことでした。主がエリの家を永遠にさばくということです。それは、エリの息子たちが律法に従わないこと、不道徳の罪を続けていること、そして、父親であるエリがそのことに厳しく対処しなかったことが原因でした。

サムエルはこの内容をエリに知らせるのを恐れましたが、エリは隠さず話すように言いました。そこでサムエルは、すべてのことをエリに話し、エリもそれを主のことばとして受け入れました。

こうしてサムエルは、主のことばを伝える預言者として、イスラエルを導く者となったのです。

聖書の復習・適用

① 祈りについて考えましょう。ふだん、どんな祈りをしていますか。心から切実に何かを願い、祈ったことがありますか。はつきり答えを頂くま

で祈り求めたことがありますか。(ハンナのように、心を注ぎ出して祈り、主から何らかの答えを頂いて気持ちが変わった(I・12～18)といったことがあれば、教師が証しをするとうい)

② 礼拝やデイボーションで、聖書を開き、祈るとき、神に対してどのような気持ちで向き合っていますか。(気持ちや神と神のことばに向かっているだろうか。「主」が私で、「しもべ」が神、「話す」のは私、「聞く」のは神、という状態になっていないだろうか)

毎日の聖書と祈り

日Iサムエル3・9 主よ、お話しください。私は聞いています。

月Iサムエル1・10～16 ハンナのように、心を注ぎ出して祈ります。

火Iサムエル1・17～18 神から答えを頂くまで、祈り続けることができますように。

水Iサムエル1・19～20 どうか私の祈りに心を留めてください。私の願いを聞いてください。

木Iサムエル3・1～5 私が主を知り、主のことばを示していただける者となれますように。

金Iサムエル3・10～14 神であるあなたが主、私、しもべです。主のことばを聞かせてください。土詩篇119・105 主のみことばに、日々期待して耳を傾けることができますように。

なか続かなくても、日々みことばに触れるよう励ましていこう。

★神を父と呼び、親しく話すことができるのは、主イエスが仲介者となり、罪ある私たちと神との間に立つてくださったからである(1テモテ2:5)。このことに感謝しつつ、熱心に祈る者となりたい。

ワンポイント・アドバイス

★主のことばを聞くにはどうしたらよいらうか。祈りのうちに直接語られる、聖書や信仰書を読んでいて示される、霊的指導者の助言、状況からの示唆、クリスチャンの交わりを通して気づかされることもある。しかし、日頃からの神との関係が密でなければ、また聞く心がなければ、主の語りかけを敏感にキャッチすることはできないだろう。新年なので、デイボーションを始めるよいチャンスである。なか

1/6《第1課》  
(新年)

## サムエル

I サムエル1章、  
2:18~26、3章主 題  
暗唱聖句  
目 標神のことは聞き、伝えた預言者。  
「主よ、お話しください。しもべは聞いております」(Iサムエル3・9)  
自ら主の声を聞くとともに、幼い魂のために祈る者とされる。

「神のともしびが消される前であり」(3・3)は、口語訳では、「神のともしびはまだ消えず」となっています。燭台のともしびは日の入りとともに点火され、夜の間ずっと輝き、日の出とともに消されました。ですから、サムエルが生まれて初めて神の声を聴いた、この幻の時は夜明け前であったということですから、消されないで輝き続けた「神のともしび」とは、まさにここに登場してきた少年サムエルその人でした。

士師記の時代はまことに暗黒そのものでした。「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた」(士師21・25)とあるとおりで、Iサムエル3・1にも、「そのころ、主のことはまれにしかなく、幻も示されなかった」とあります。

## 1. サムエルの誕生 (1章)

サムエルの生涯は、誕生から奇しい神の恵みに

## 2. 主の前に仕えるサムエル (2・18~26)

「サムエルは、亜麻布のエポデを身にまとった幼いしもべとして、主の前に仕えていた」(18節)。主の家では、老齢のエリと、その息子たちが主に仕えていました。といっても、「エリの息子たちはよこしまな者たちで、主を知らなかった」(12節)とあります。ささげものについても罪を犯し、また、「天幕の入り口で仕えている女たちと寝ている」(22節)など、信じがたいことが記されています。

ここで、母ハンナの信仰を考えてみます。ハンナは、「この子を主におゆだねたいです。この子は一生涯、主にゆだねられたものです」(1・28)と、祭司エリに語りました。主の家のありさまがこれほどひどい状態であったにもかかわらず、ハンナは、主の前での約束を果たしたのです。「そんなひどいところだったら、私自身のもとに置いて育てます」とは言いませんでした。そしてサムエルは、「祭司エリのもとで主に仕えていた」(11節)のです。主の前に罪を犯し続けていたエリの息子たちとは対照的に、サムエルは主の前に仕え、「主にも人にもいつくしまれ、ますます成長し」(26節)ていったのでした。

## 3. 主の声を聞くサムエル (3章)

「サムエル、サムエル」。そのようなある日、主は

満ちていました。

父エルカナには二人の妻がいました。一人の名はハンナ(日本語に訳せば「めぐみさん」)、もう一人の名はペニンナといいました。ペニンナには子がいましたが、ハンナには子がいませんでした。年に一度、シロにある主の家に礼拝のために上るたびに、ペニンナからの嫌がらせもあり、つらい思いをしていたハンナでした。

ある年、ハンナは食事の後、立ち上がり、心の痛みを主の前にもち出し、激しく泣いて主に祈りました。「男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、主にお渡しします」(11節)と。

この心を注ぎ出したハンナの祈りは主の心に留まり、ついに念願の男の子が与えられました。彼女は、「私がこの子を主にお願ひしたのだから」(20節)と言って、サムエル(「神が聞かれた」を意味する)と名づけました。

サムエルを呼ばれました。彼は、「はい、ここにおります」と言って、エリのもとに走っていきましが、エリは、「呼んでいない。帰って、寝なさい」——この繰り返しが三度もありました。「見、ユーモラスな光景でもあります。老祭司エリは三度めで初めて、「主が少年を呼んでおられる」ということを悟った」(8節)のでした。

エリの霊的感覚が鈍くなっていたこと、それと同時に、少年サムエルの純粹な神のしもべとしての姿、また、神の御声に耳を傾けようとする初々しさを覚えます。そのため、エリはサムエルに告げました。「主がおまえを呼ばれたら、『主よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい」(9節)と。

それでサムエルは行って、自分のところで寝ました。すると主が来て、そばに立ち、「サムエル、サムエル」と呼ばれました。サムエルはエリに教えられたとおり、「お話しください。しもべは聞いております」(10節)と言うと、主はエリの家についての恐るべき永遠のさばきについて語られたのです。その主のことは、サムエルを通してエリにすべて語られました。このようにして、主の預言者サムエルは立てられていったのです。

(小野淳子)

## 学びを深めるために

★新年は、イスラエルが王国という新しい転換期に入って行く時代から学んでいきましょう。

★サムエルのように、祈られて生まれてくる子の幸いを覚えます。同時に、幼い魂の導きと救いのために、教会学校や、子どもへの働きのために祈り労したいものです。

★サムエルはどのような時代背景、また家庭環境に誕生しましたか。母のハンナはどんな女性だったで

しょうか。

★祭司エリのもとで、主の前に仕えていたサムエルに、神はどのように臨まれましたか。少年サムエルの優れた点はどこだったところでしょう。私たち自身は、主の前に整えられていますか。